OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	＜紹介＞熊倉功夫・筒井紘一・名和修監修　川崎佐知子校訂『御茶之湯記 予楽院近衛家凞の茶会記』（茶湯古典叢書六）
Author(s)	仲, 沙織
Citation	語文. 2014, 103, p. 64-64
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70948
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

熊倉功夫・筒井紘一・名和修監修　川崎佐知子校訂
『御茶之湯記　予楽院近衞家凞の茶会記』（茶湯古典叢書六）

仲　沙織

本書は、近衞家第二十一代当主家凞（一六六七―一七三六）が催した茶会の記録である、陽明文庫蔵『御茶湯之記』全十一冊の全本文を翻刻し、脚注を付したものである。記事は正徳三年（一七一三）八月二十七日より享保二十一年（一七三六）正月七日までの二十四年間、三百八会におよび、茶会の日付と場・客人・道具・献立が書き控えられている。

脚注では本文中に登場する人名・道具・料理・植物・書画などについて、同時代資料を用いた詳細な解説がなされる。巻末の補注では、家凞に近侍した医師であり、『御茶湯之記』において四十二度もの参会が記録される山科道安（一六七七―一七四六）の著書『槐記』をはじめとして、同じ茶会の記事が見出せる周辺資料との照合が行われている。

また、本書には「解説」として『御茶湯之記』に関する論考が収録されている。名和修氏「近衞家凞について」は、近衞家嫡男に生まれ、摂政・関白・太政大臣を歴任した家凞の生涯と時勢との関わり、そして茶のみならず書画や和歌詩文などの和漢の古典・有職故実等あらゆる諸芸能に通じた家凞の学術文化人としての業績を紹介する。熊倉功夫氏「『御茶湯之記』にみる懐石」は、その特徴として食材の多彩さと食器に対する関心の高さを指摘するとともに、家凞が試みた懐石の趣向について解説を行う。筒井紘一氏「近衞家凞の茶会」は、人的交流という視点から家凞の茶会の特徴を捉えている。家凞の茶に影響を与えた周囲の文化人や、『御茶湯之記』に記載される茶会に招かれた客人、そして女性の参会者といった人物達を取り上げ、彼らと家凞との関係性について論じている。川崎佐知子氏「『御茶湯之記』の書誌および関連資料」は、当該書の詳細な書誌とともに、同じ会記を記した多数の関連資料を紹介する。

さらに巻末には正徳元年から元文元年にわたる近衞家の動向などをまとめた「『御茶湯之記』関連年譜」、そして「客人篇」「道具篇」「献立篇」の三篇から成る『御茶湯之記』の索引が併載されている。索引の後者二篇には「掛物」「釜」、「料理」「菓子」等のより詳細な分類が設けられており、実に多岐に渡る人物や器物、食材が列挙されている。

『御茶湯之記』は陽明文庫蔵の孤本であり、晩年期にあった近衞家凞の茶道を今に伝える貴重な資料であるが、その豊富な記事は茶道史のみならず、食文化史や当時の人的交流を研究する上でも重要な資料となる。全文翻刻を行い、詳細な脚注と解説を付した本書の刊行によって、『御茶湯之記』のより広い利用が可能となった。本資料を用いた各分野の新たな研究成果が期待される。

（思文閣出版、二〇一四年六月、六一〇頁、一五，〇〇〇円）

（なか・さおり　本学大学院博士後期課程）